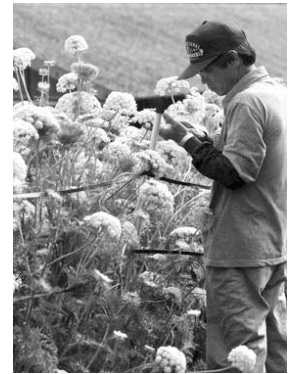


有機農業 30年、自家採種 28年

# 生物多様性を追い求めて



## 28年目の人參の花

畑の中には、人參の花が咲いています（写真上）。真っ白い花です。もうこの人參の花も私の農園の中で、28回目の花です。よくも、種を切らずに守り続けてきたものです。

有機農業を始めて30年も過ぎてしまいました。それと同じくして、この人參の花も咲き続けてきました。この地元の黒田5寸人參から、人參の一生と付き合っていく中で、私はいろいろのことを学んできました。

花を見ていく中で、10年過ぎたころに、それまではさりげなく見ていたものが、やっと、この人參の花の白い美しさを感じました。野菜たちの花とは美しいものなのだ。

その花が散っていく中で、枯れ果てていきながら、みずからの次の種を、花が変わって鞘の中にたくさんにつないでいく。この鞘の中にみずからの種を次の世代に託していきます。このときが、野菜の一生の中で、いちばんにすばらしく感じる時です。

そんな美しい花から、鞘になって種が稔って、鞘が色づいてきた時期に、その鞘の収穫を終えて、乾燥をします。今年は、梅雨がとても早く、鞘の付きが少なくて種の量が少なく感じます。

このような異常天候が進んでいく中で、種を守っていくことは大変になっていくでしょう。今まで以上に大切にしなければと感じるこの頃です。

## 守るものが増えていく

今、みずからの農園において、農業の中における生物の多様性を追い求めています。



雲仙市吾妻町で長年守り継がれてきた「雲仙こぶ高菜」

まずは、畑の中の生態の多様性、また畑の周辺での生き物や生態の多様性です。5月に入れば、キャベツ畑にモンシロチョウが飛び舞い、青虫たちが発生してきます。キャベツの外を食べる、やさしい青虫たち、そして今度は、キャベツの芯にまで入っていくヨトウ虫たちの発生。そのキャベツには、ヨトウ虫を求めてムカデたちも飛び出してびっくりします。

梅雨に入ると雑草がところ狭しと生えていきます。その草の中には、キジたちが卵を温めてジーツとしていて、こちらがびっくりしてしまうことが時々あります。

そして畑の中には、品種の多様性、種の多様性、かぶや大根の日本の品種の多様性はすばらしく、守るものが増えていきます。そんな多様性豊かな野菜たちの収穫、そして味と食の多様性へと広がっていく。多様性から農業を見ていくと、有機農業がまた新たな役目が見えていくようです。

私の農業経営は、畑270アール、水田14アールです。主に野菜中心の経営です。野菜の品種はとも多く80種類近くあると思いますが、あまり数えたことはありません。

みずから守っている種から育てる野菜たちが多くなってきましたが、すべてをそうするのはなかなか難しく感じます。しかし、年々増え続けていきます。種を取る時期が農繁期に重なってくる

まず、畑の中の生態の多様性、また畑の周辺での生き物や生態の多様性です。5月に入れば、キャベツ畑にモンシロチョウが飛び舞い、青虫たちが発生してきます。キャベツの外を食べる、やさしい青虫たち、そして今度は、キャベツの芯にまで入っていくヨトウ虫たちの発生。そのキャベツには、ヨトウ虫を求めてムカデたちも飛び出してびっくりします。



人参の母本選抜(上)と種採り

のが問題ですね。主に長崎市の消費者に野菜を届けていましたが、年々減り続けていく中で、今は宅配で届ける消費者が増え続けて

います。オーガニックレストランへの納入も安定してきました。地域の中では、雲仙市有機農業推進ネットワークを発足して、生産者の交流や研修会を進めています。また今年の12月3日〜4日に雲仙において、テッラマードレを開催する準備を進めています。特に農業における生物の多様性や食の多様性を表現できればと思っています。

### 岩崎政利プロフィール

1950年、長崎県生まれ。長崎県雲仙市吾妻町で農業に従事。30年前から有機農業に切り替え、野菜の自家採種を始める。80種の野菜を生産し、50種以上のタネを採っている。

NPO法人日本有機農業研究会種苗部幹事。長崎県指導農業士。「スローフード長崎」代表。雲仙市伝統野菜を守る会、雲仙市有機農業ネットワーク代表

著書に『岩崎さんの種子採り家庭菜園』（2004年／家の光協会）。『つくる、たべる、昔野菜』（2007年／新潮社）

〒859・1115 長崎県雲仙市吾妻町永中和742